



朝の通学路巡回

毎朝、7:45～8:25頃に、登校してくる児童に声をかけながら、通学路を巡回しています。交差点や、子供たちが道路を横断する場所には、折に触れて要所要所に交通指導隊や保護者の方々が見守りに立ってくださっています。御協力に、改めて感謝申し上げます。

郡山小学校南西側通学路（東北電力南仙台変電所付近・北目南、郡山南方面）のT字路

毎日の巡回で、通学路の交通量の多さを実感しています。全ての場所にそれぞれの危険性があり注意が必要ですが、危険性を特に強く感じるのは、変電所南側のT字路付近です。保護者からも不安の声が寄せられており、校長から宮城県警察/交通規制課に、以下のような情報提供を行いました。

「通学で多くの児童が横断する場所であり、国道4号線（バイパス）から仙台南部道路方面へ抜けようとする車もあって、交通量が多い場所です。時には大型トラックも通過し、毎朝巡回していて、児童が横断する際の危険性を強く感じております。2方向が一時停止になっていますが、止まらずに通過する車もあり、横断歩道がありません。信号機と横断歩道、あるいは、せめて横断歩道だけでも設置できないでしょうか。日々、危険性を目の当たりにしてヒヤリハットの連続です。いつ大事故が起きてもおかしくない場所であり、是非現地を確認していただきたくお願いいたします。子供たちの安全のため、何卒よろしくお願いいたします。」

交通関係については学校が対応できることではありませんが、子供たちの安全を守るため、危険性を訴えました。

先日開催された郡山中学校区健全育成連絡協議会役員会の席でも、校長からこの話題を提供しました。同席していた各校PTA会長・防犯協会会長・町内会長・社会福祉協議会会長・民生委員児童委員協議会長・社明運動委員長・交通安全協会郡山支部長等、地域で子供たちの安全を守っていただいている方々と情報を共有し、危険性を重く受け止めていただきました。

その会議の席で、過去の経緯について御存知の方から、以下のようなお話がありました。

- ・問題のT字路については、以前地域住民と警察による話し合いが持たれたことがある。
- ・T字路への信号や横断歩道の設置についても話し合われたが、住民側から左折時の見通しが悪くかえって危険ではないかという意見があり、設置は見送られた。
- ・その話し合いで、歩道に歩行者を守るための柵が設置された。

その後、交通安全協会郡山支部長から御連絡をいただきました。支部長から改めて県警に確認の連絡を入れていただき、再度現状の確認を行っていただくことになったそうです。

現在も、変電所方面から横断する際にはどこで渡ればいいのか、はっきりしない状態ですし、交通量も更に増えています。今後も、関係機関や地域の皆様と連携して、子供たちの安全のために実効性のある対応を求めて努力して参ります。

※その後、有識者の方から以下の御意見をいただきました。（5/31）

- ・横断歩道設置基準を満たさない場所への横断歩道の設置は、歩行者をかえって危険にさらす。
- ・各区の小学校が数年ごとに順番に道路管理者（国・市等）と警察や地域協力者と共に通学路の点検を行っているのに、その順番を無視してはいけない。
- ・危険な所で道路を横断せず、交差点以外での横断場所を確保すべきで、学校ではそのために通学路を変更する等の対策をとるべきだ。

ありがたい御意見をいただきました。学校としては不安の声への配慮や危険性について共通理解を図りたいと考えての情報発信でしたが、理解や説明が足りないところが多かったと反省しております。改めて以下のように確認いたしました。

○T字路（付近）の横断歩道の設置は危険であることは理解しており、学校としてもこれまでの経緯も踏まえて警察から連絡があった際にはその旨を申し上げた。

○T字路北側の学校付近での安全に渡れる場所と渡り方について、今後も継続して子供たちには指導していく。

○警察からの再確認の連絡は、交通安全協会郡山支部からの要請によるものだと思うが、設置基準を満たさない交差点への横断歩道や信号の設置ができないことは交通安全協会郡山支部長からも伺っており、T字路付近への設置の話にはならない。

○児童に指導しているT字路北側学校付近の横断箇所への横断歩道設置について検討していただいたとしても、そこでも基準と照らして問題があれば、無理に設置はできないだろう。

○安全点検による順番については尊重しなければならないと考えており、そのことも警察の方には申し上げた。

○地域住民の保護者の方からは、朝の通り抜け車両によって子供たちが危険にさらされている現状を心配する声があり、地域住民と警察や行政との話し合いは今も行われているが、学校はそれに直接関われる立場ではない。

○各学級で児童に指導すると共に、毎朝校長が巡視し、児童やドライバーに注意喚起している。